

令和3年度 黒埼商工会 下期景況調査
報告書

令和4年2月

黒埼商工会

－目次－

I 調査の実施概要	1
1. 目的	1
2. 調査期間	1
3. 調査対象	1
4. 調査方法	1
5. 設問内容	1
6. 回収結果	1
7. 集計・分析に係る留意事項	1
II 調査結果の概要	3
III 調査結果	4
1. 企業の概要	4
(1) 業種	4
(2) 従業員数	4
(3) 企業区分	5
(4) 後継者の有無	5
2. 売上	7
3. 採算(経常利益)	9
4. 仕入単価	11
5. 販売(客)単価	13
6. 資金繰り	15
7. 雇用動向	17
8. 景況判断	19
9. 経営上の問題点	21
10. 新型コロナウイルス感染症の影響	23
11. 今後の事業・経営において強化したい点等	24
IV 調査結果の総括	25
1. 調査項目別概要	25
2. 業種別の動向(景況判断 BSI・前期比)	26
3. まとめ	26
【資料編】	
景況調査ヒアリングシート	28

I 調査の実施概要

1. 目的

当地域（旧黒埼町）の景気動向を把握し、小規模事業者の経営支援に活かすことを目的に調査を行った。

2. 調査期間

令和3年12月下旬～令和4年1月上旬

3. 調査対象

黒埼商工会の会員事業者のうち、商工会事務局が抽出した30事業者とする。

4. 調査方法

別紙「景況調査ヒアリングシート」を用いた経営指導員の面談による聞き取り調査

5. 設問内容

主な設問内容は以下のとおりとする。

- ① 企業の概要
- ② 企業の現況
- ③ 経営上の問題点
- ④ 新型コロナウイルス感染症の影響（自由回答）
- ⑤ 今後の事業・経営において強化したい点（自由回答）

6. 回収結果

有効回答数：30件　有効回答率：100%

7. 集計・分析に係る留意事項

- (1) 数値（%）は小数点第2位以下を四捨五入しており、総数と内訳の計は必ずしも一致しない。また、無回答は数値に含めない。
- (2) 調査結果は、景況判断指数の一つである BSI（Business Survey Index）で評価した。BSI とは、各調査項目において「プラス（増加・好転・上昇）」と回答した企業の割合から「マイナス（減少・悪化・低下）」と回答した企業の割合を差し引いた値を示す。
- (3) 文中において、「前期」「今期」「来期」については、特に説明がない限り、以下の時期である。
 - 前期 令和3年1月～6月期
 - 今期 令和3年7月～12月期
 - 来期 令和4年1月～6月期

(4) 他地区との比較については、以下の資料を用いた。

① 第四北越リサーチ&コンサルティング株式会社「新潟県企業動向調査 2021 年下期」

(以下、「第四北越調査」という。)

- ・調査対象：新潟県内事業所 1,000 社
- ・調査方法：郵送及び Web アンケートによる記名アンケート方式
- ・調査時期：2021 年 11 月 10 日～11 月 26 日
- ・回答状況：回答事業所数 603 社
有効回答率 60.3%
- ・参考項目：仕入価格、販売価格、雇用、業況判断

② 独立行政法人中小企業基盤整備機構「第 166 回中小企業景況調査（2021 年 10-12 月期）」※（以下、「中小企業調査」という。)

- ・調査対象：中小企業基本法に定義する全国の中小企業 18,911 社
- ・調査方法：原則として、全国の商工会、商工会議所の経営指導員、及び中小企業団体中央会の情報連絡員の訪問面接による、聞き取り調査
- ・調査時点：2021 年 11 月 15 日時点
- ・回収結果：回答企業数 18,238 社
有効回答率 96.4%
- ・参考項目：売上額、採算、原材料・商品仕入単価、売上単価・客単価、資金繰り、業況判断

※中小企業調査では、DI (Diffusion Index) を用いて評価をしている。DI とは、「(増加・上昇・好転) — (減少・低下・悪化)」で求めた指標であり、調査時点における景気の現状を表す。本調査では、企業規模、調査項目を踏まえ、中小企業調査の DI を用いて比較した。

また、中小企業調査は四半期毎（1～3 月、4～6 月、7～9 月、10～12 月）に行っていることから、黒崎商工会調査と比較する際に 1～3 月と 4～6 月の平均を 1～6 月に、7～9 月、10～12 月の平均を 7～12 月に表示している。

II 調査結果の概要

地域内企業の「景況判断」は、3期ぶりに低下し、来期も悪化が見込まれている。
今期の概要は以下のとおりであった。

① BSI

- ・「売上」、「仕入単価」、「販売（客）単価」、「雇用動向」はいずれも上昇した。
- ・「採算（経常利益）」はやや低下した。
- ・「資金繰り」は横ばいに推移した。


② 経営上の問題点

- ・「店舗、設備等の老朽化」の割合が最も高く、以下「仕入単価の上昇」、「需要の停滞」、「従業員の確保」と続いている。

③ 業界の動向

- ・製造業では、仕事の依頼が不安定だとの声があがった。
- ・建設業では、事業者によって回復度合いに差が出ている。
- ・卸・小売業やサービス業他では、売上の減少やメーカーからの納期遅れといった新型コロナウイルス感染症の影響が見られる。
- ・どの業種においても、仕入単価が高騰しており採算は厳しい状況にある。

[調査結果の概要表]

	前期と比較した 景況感（BSI）	今期の業種ごとの概況
景況判断		卸・小売業やサービス他で「好転」より「悪化」と回答した企業が特に多い。
売上		卸・小売業やサービス他で「増加」より「減少」と回答した企業が特に多い。
採算（経常利益）		建設や卸・小売業、サービス他で「好転」より「悪化」と回答した企業が特に多い。
仕入単価		製造、建設、卸・小売業、サービス他いずれも「上昇」と回答した企業が多い。
販売（客）単価		製造や建設で「上昇」がみられるが、サービス他で「低下」がみられる。
資金繰り		建設で「好転」がみられるが、卸・小売業で「悪化」と回答した企業が多い。
雇用動向		全ての企業が「不変」と回答している。

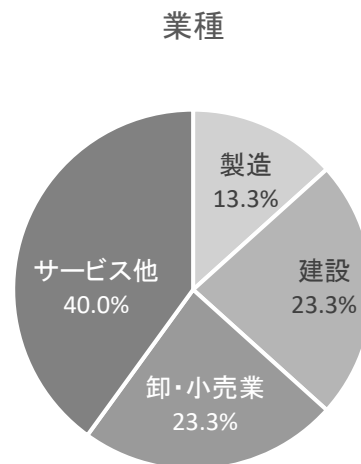
Ⅲ 調査結果

1. 企業の概要

(1) 業種

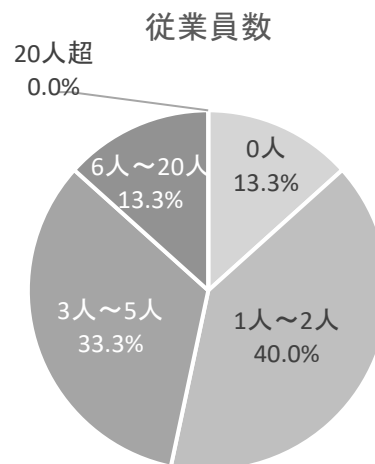
業種	回答数
1 製造	4
2 建設	7
3 卸・小売業	7
4 サービス他	12
合計	30

「サービス他」が40.0%を占めており、次いで「建設」と「卸・小売業」が23.3%である。



(2) 従業員数

従業員数	回答数
1 0人	4
2 1人～2人	12
3 3人～5人	10
4 6人～20人	4
5 20人超	0
合計	30



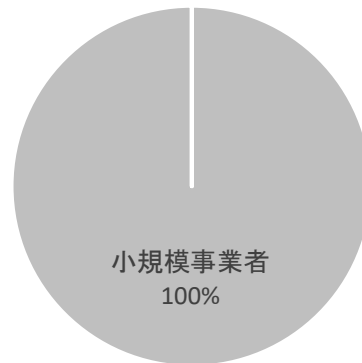
「1人～2人」が最も多く40.0%、次いで「3人～5人」が33.3%である。また、「20人超」と回答した企業はない。

(3) 企業区分

企業区分	回答数
1 小規模事業者	30
2 小規模事業者以外	0
合計	30

すべて「小規模事業者」である。
小規模企業活性化法により、従業員 20 人以下の事業者を「小規模事業者」と定義している。

企業区分



(4) 後継者の有無

後継者の有無	回答数
1 有	10
2 無	20
合計	30

後継者は「無」が 66.7%である。
後継者「無」の割合（後継者不在率）について、平成 29 年度上期調査以降の結果を時系列でみると、50%から 70%の間で推移しており、今期は前期より 1.2%上昇した（図 1.1）。

後継者の有無

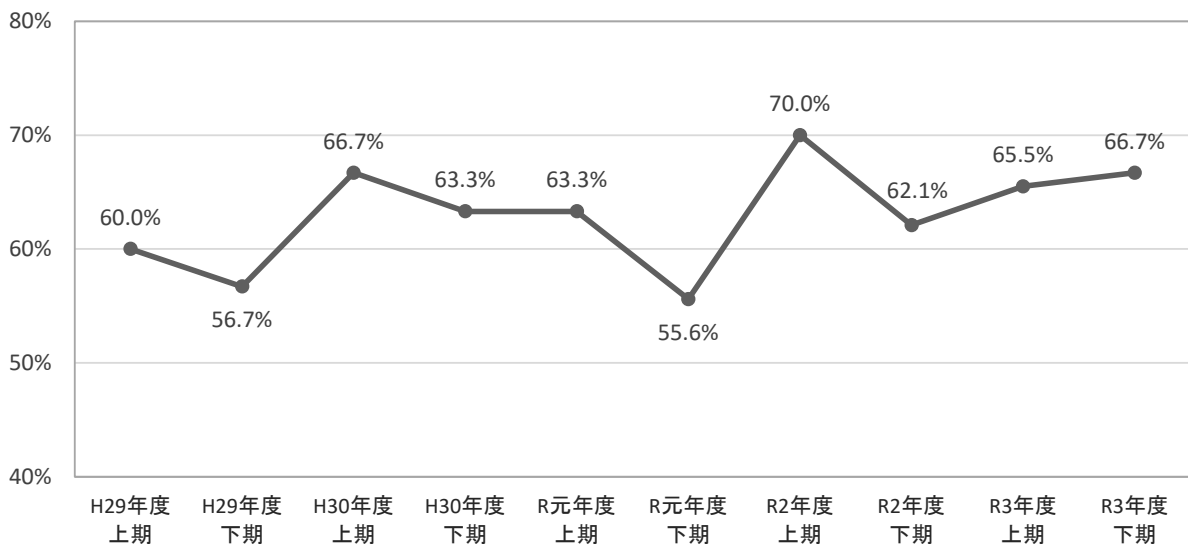
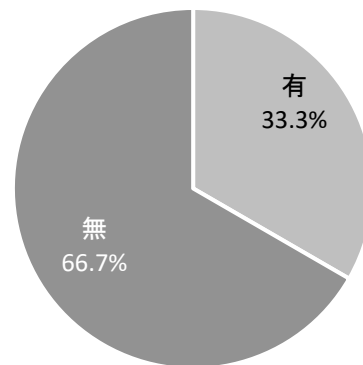
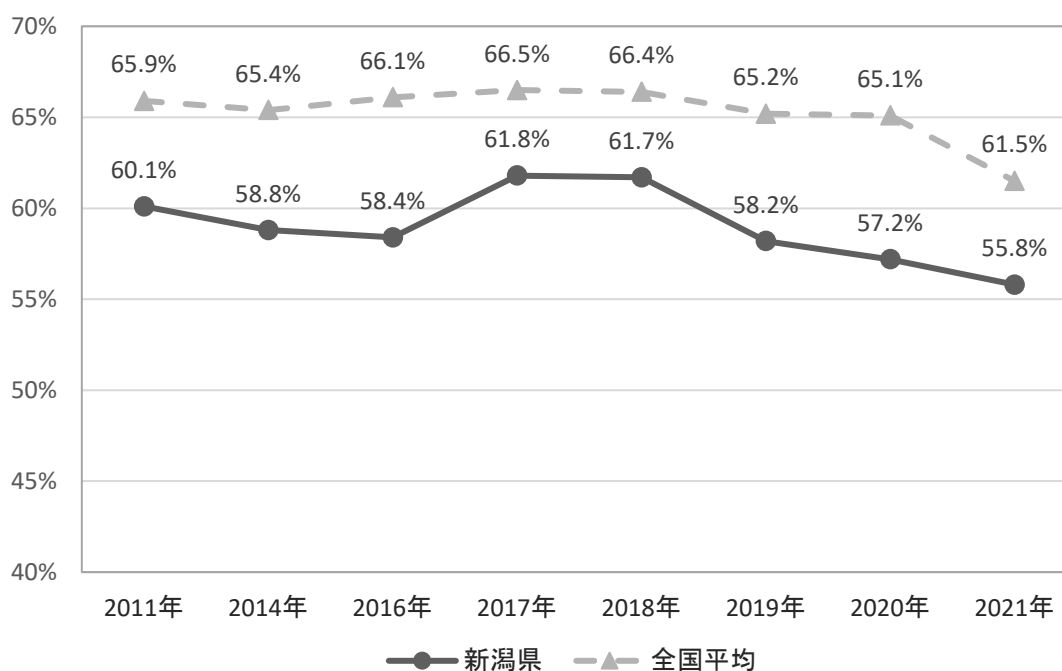


図 1.1 後継者不在率の推移

株式会社帝国データバンクが全国の企業約 26 万 6000 社に対して 2021 年に行った調査によると、全国・全業種の後継者不在率は 61.5%であり、前年より 3.6 ポイント低下した。また、都道府県別の後継者不在率をみると、「新潟県」は 55.8%で前年より 1.4 ポイント低下した。

この調査結果と今回の黒埼商工会の調査結果を単純に比較することはできないが、当地域の不在率（66.7%）は全国平均と新潟県平均よりも高いことがわかる。

後継者不在率推移（帝国データバンク）



出典：株式会社帝国データバンク『全国企業「後継者不在率」動向調査（2021年）』（2021年11月22日公表）

株式会社帝国データバンク新潟支店『新潟県「後継者不在率」動向調査（2021年）』（2021年11月30日公表）

2. 売上

今期の売上が、前期と比べて「増加」と回答した企業の割合は 6.7%、「不変」は 53.3%、「減少」は 40.0%という結果だった。

今期の売上 BSI（「増加」－「減少」）は▲33.3 と、前期（▲43.3）より 10 ポイント上昇した。来期は▲40.0 と、今期より 6.7 ポイント減少する見込みであり、依然として厳しい状況が続くとみられる。

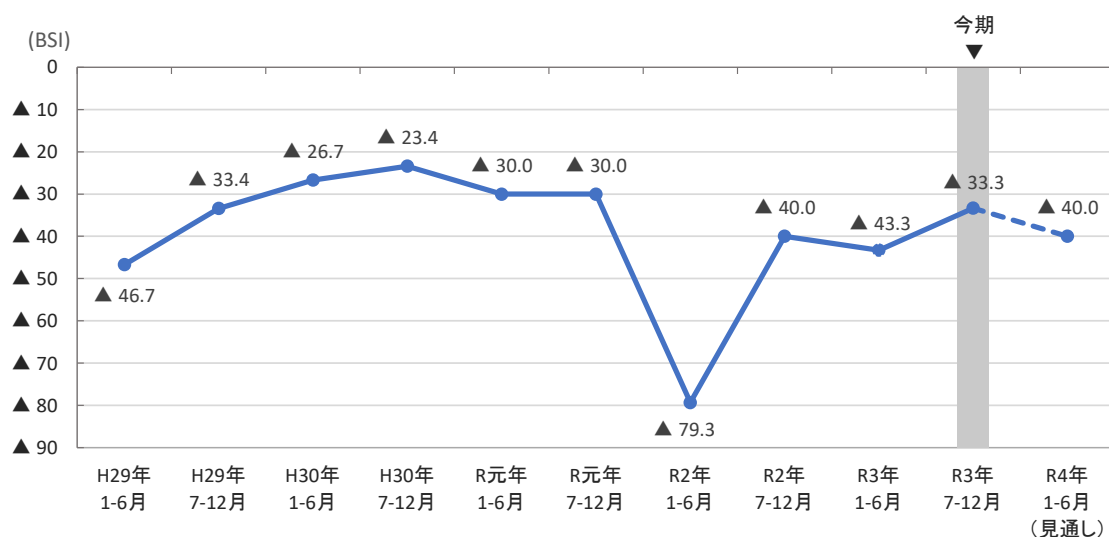


図 2.1 売上 BSI

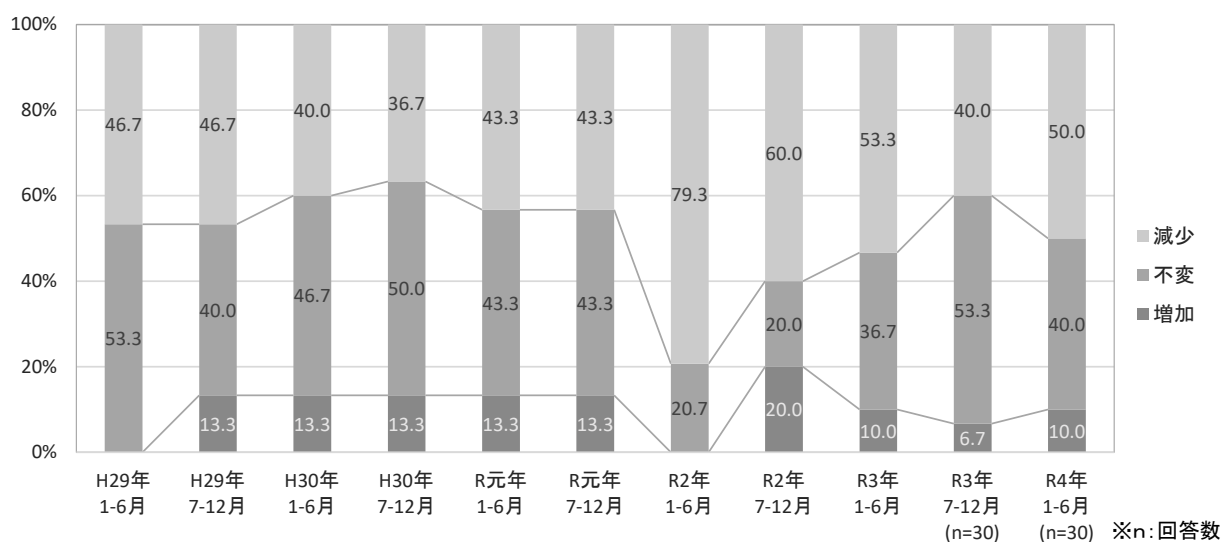
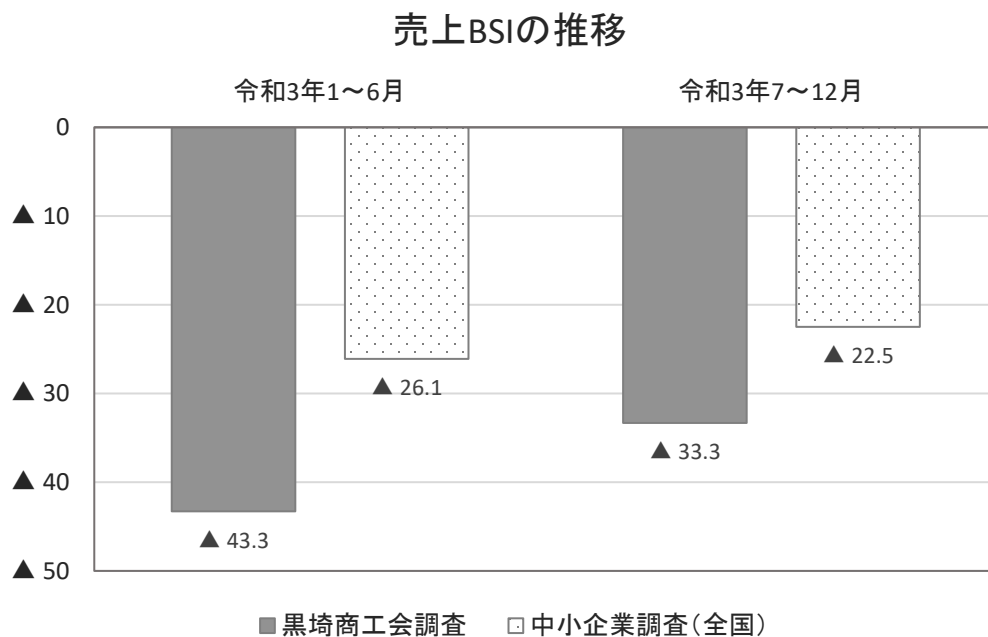


図 2.2 売上の回答割合

【参考】

「中小企業調査」をもとに全国の中小企業の売上額 DI*をみると、前期は▲26.1、今期は▲22.5であり、前期から今期にかけて 3.6 ポイント上昇した。

黒埼商工会調査と中小企業調査ともに売上 BSI は上昇しており、差は前期よりも縮小している。



※中小企業調査では、売上額を尋ねている。

3. 採算（経常利益）

今期の採算（経常利益）が、前期と比べて「好転」と回答した企業の割合は6.7%、「不変」は43.3%、「悪化」は50.0%という結果だった。

今期の採算（経常利益）BSI（「好転」－「悪化」）は▲43.3 と、前期（▲40.0）より3.3ポイント悪化した。来期は▲50.0 と、今期より6.7ポイント悪化する見込みであり、全体として厳しい状況が続くことがうかがえる。

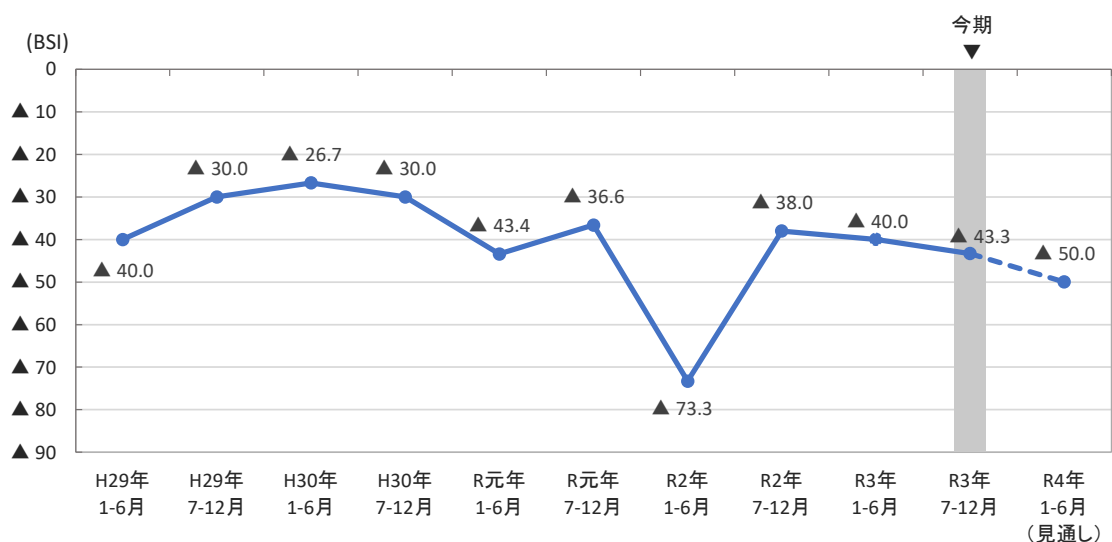


図 3.1 採算（経常利益）BSI

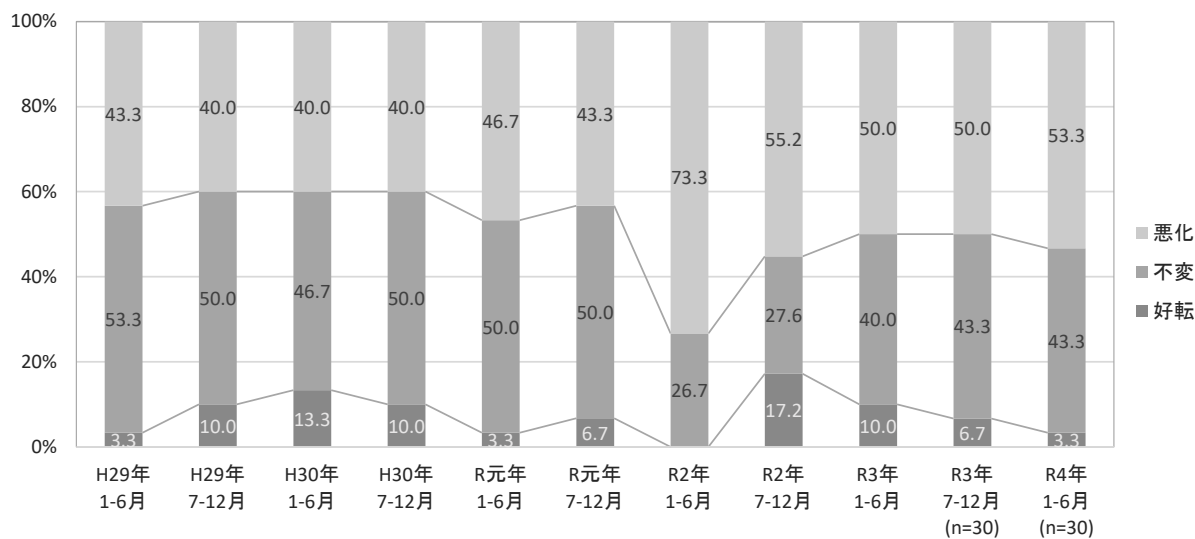
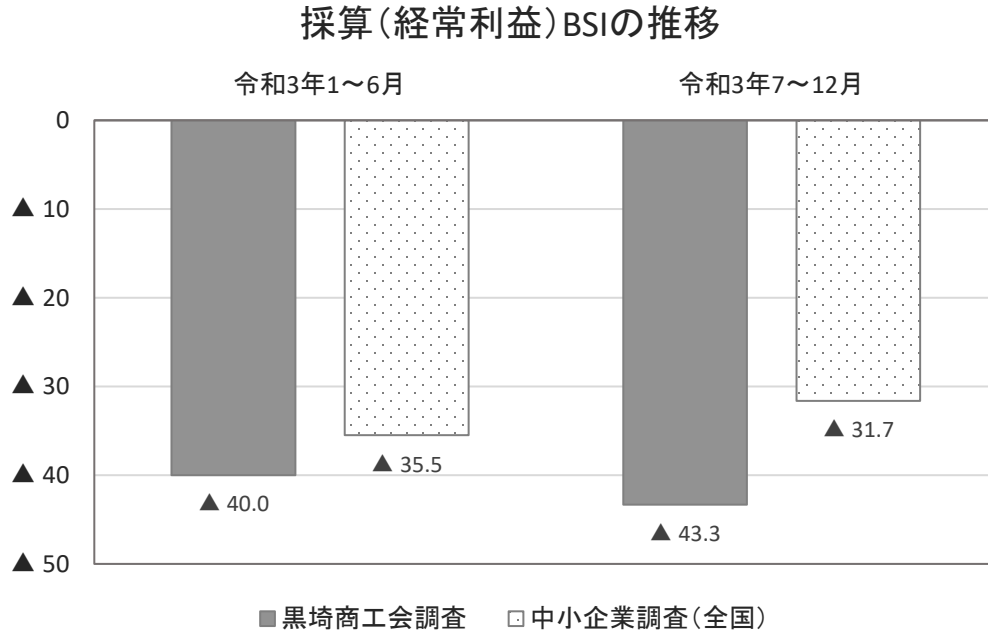


図 3.2 採算（経常利益）の回答割合

【参考】

「中小企業調査」をもとに全国の中小企業の採算（経常利益）DI をみると、今期は▲31.7であり、前期（▲35.5）から 3.8 ポイント上昇した。

中小企業調査の水準が上昇している一方で、黒埼商工会の水準は低下しており、差は前期よりも拡大している。



4. 仕入単価

今期の仕入単価が、前期と比べて「上昇」と回答した企業の割合は 60.0%、「不変」は 40.0%、「低下」は 0.0%という結果だった。

今期の仕入単価 BSI（「上昇」－「低下」）は 60.0 であり、前期（50.0）より 10.0 ポイント上昇した。来期は 56.7 と、今期よりやや低下する見通しとなっており、仕入単価の高止まりは続くと思われる。

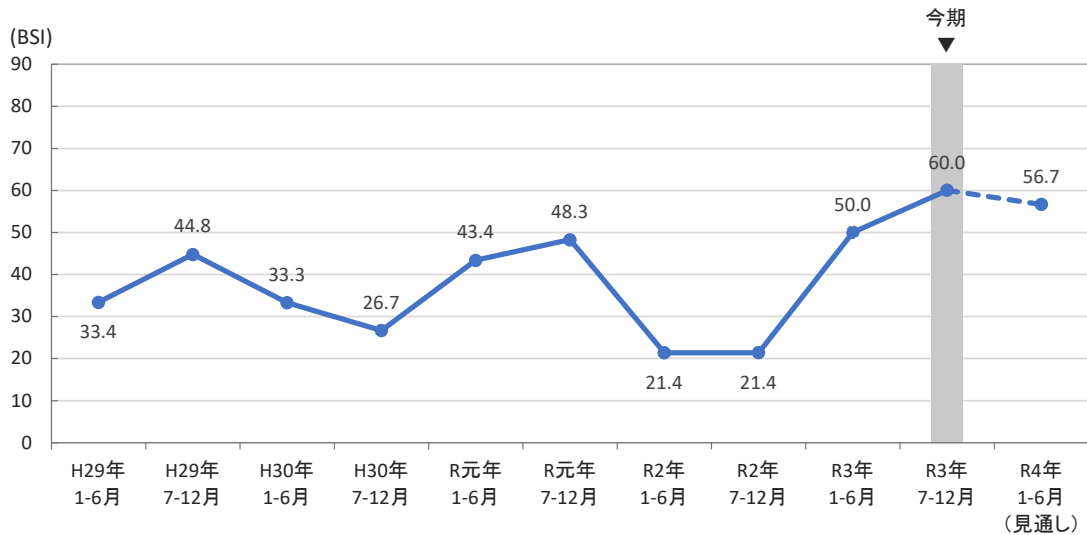


図 4.1 仕入単価 BSI

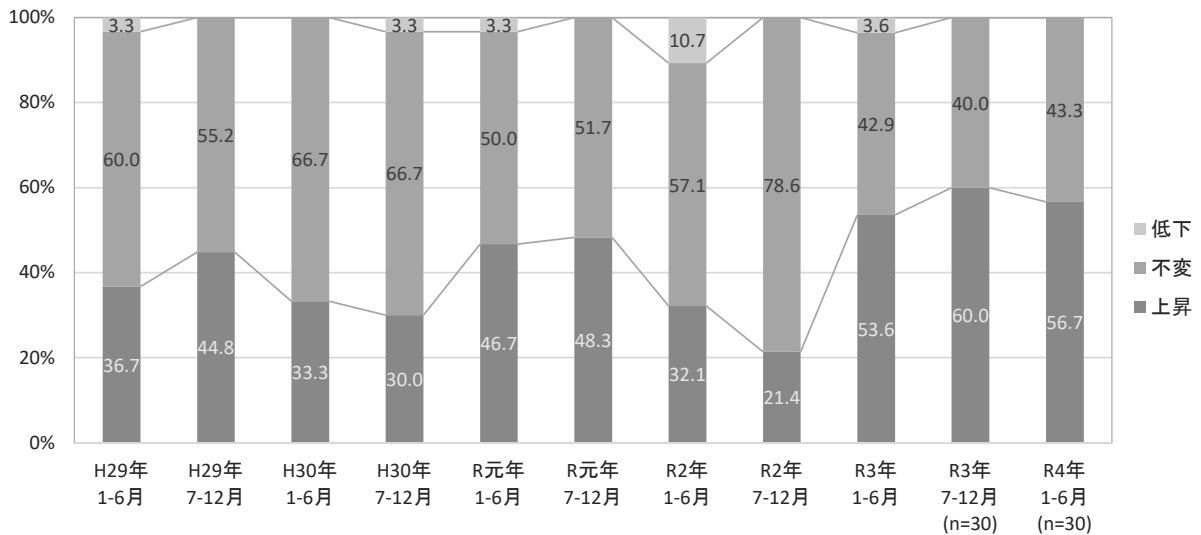


図 4.2 仕入単価の回答割合

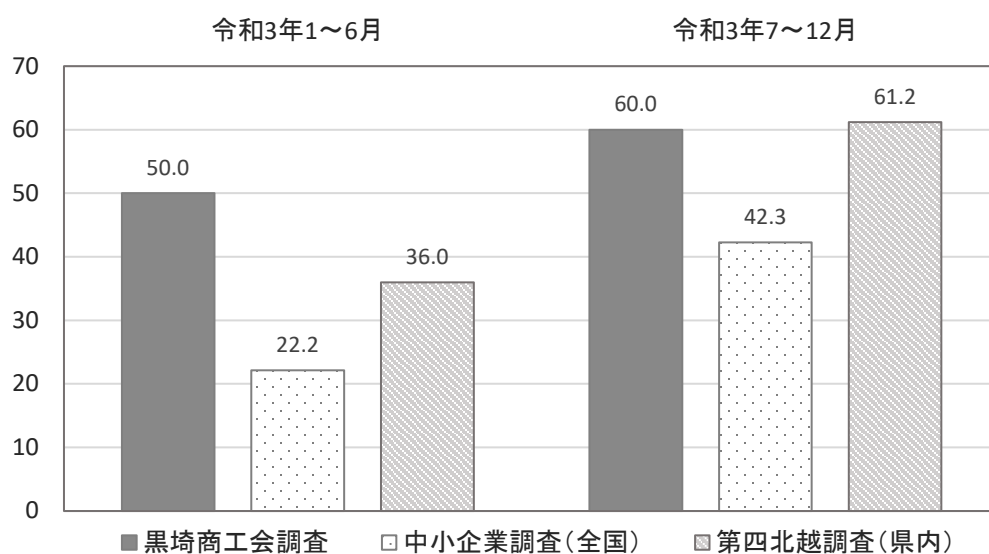
【参考】

「中小企業調査」をもとに全国の中小企業の原材料・商品仕入単価 DI^{*}をみると、今期は 42.3 であり、前期 (22.2) から 20.1 ポイント上昇した。

「第四北越調査」をもとに新潟県内企業の仕入価格 BSI^{*}をみると、今期は 61.2 であり、前期 (36.0) から 25.2 ポイント上昇した。

黒埼商工会調査、中小企業調査、第四北越調査ともに仕入単価 BSI は上昇しており、今期の黒埼商工会調査の水準は第四北越調査と同程度の水準になっている。

仕入単価BSIの推移



※中小企業調査では、原材料・商品仕入単価を尋ねている。

※第四北越調査では、仕入価格を尋ねている。

5. 販売（客）単価

今期の販売（客）単価が、前期と比べて「上昇」と回答した企業の割合は10.0%、「不変」は80.0%、「低下」は10.0%という結果だった。

今期の販売（客）単価 BSI（「上昇」－「低下」）は0.0と、前期（▲13.8）より13.8ポイント上昇した。来期も0.0と、今期から横ばいで推移するとみられる。

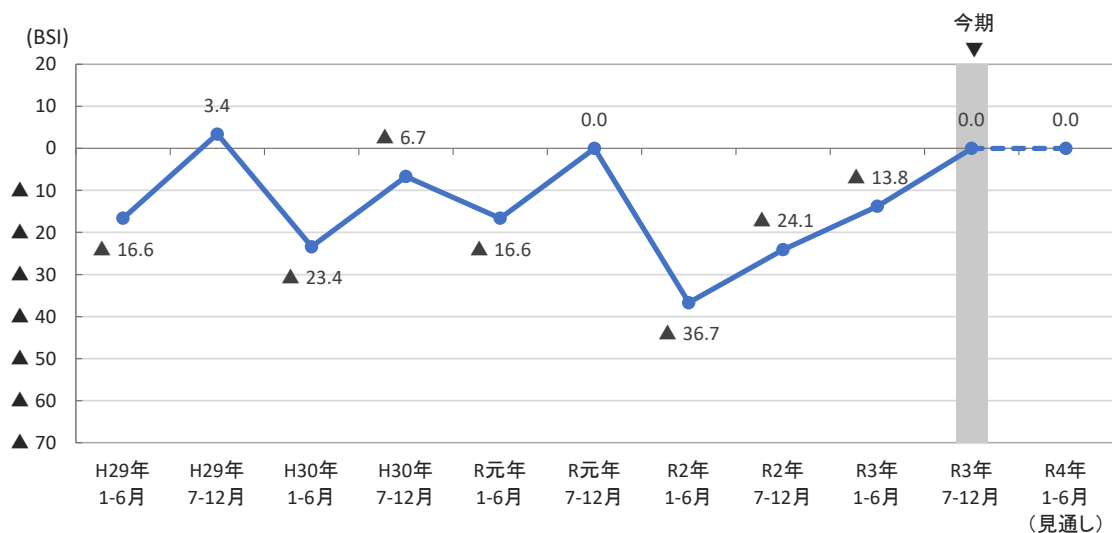


図 5.1 販売（客）単価 BSI

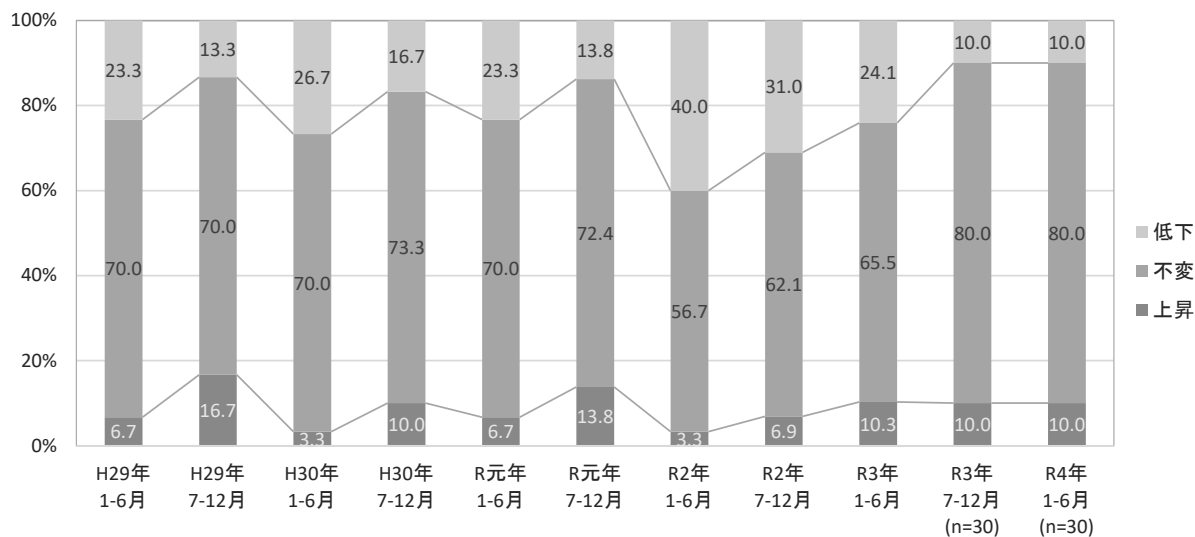


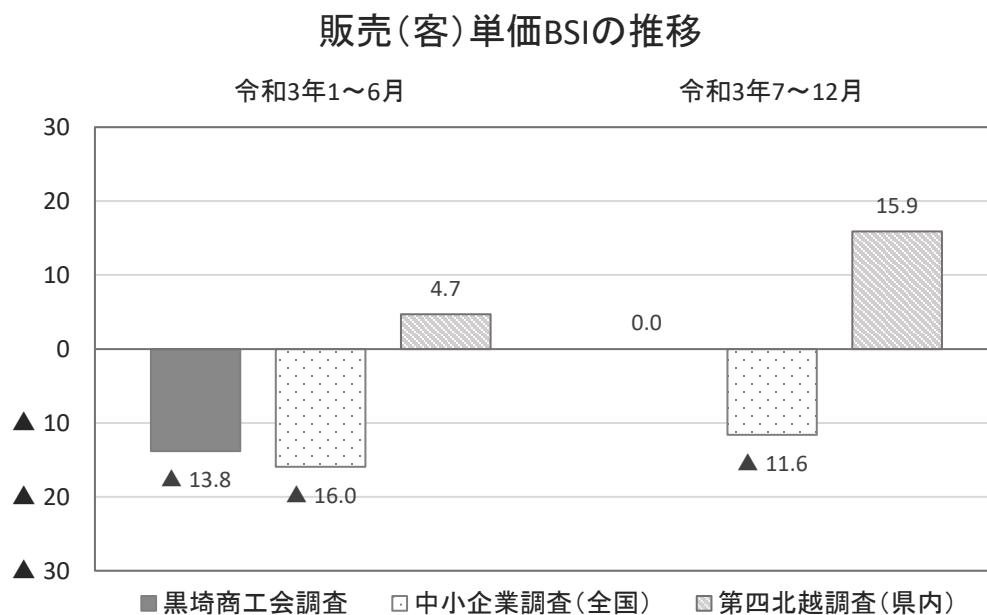
図 5.2 販売（客）単価の回答割合

【参考】

「中小企業調査」をもとに全国の中小企業の売上単価・客単価 DI[※]をみると、今期は▲11.6であり、前期（▲16.0）から4.4ポイント上昇した。

「第四北越調査」をもとに県内企業の販売価格 BSI[※]をみると、今期は15.9であり、前期（4.7）から11.2ポイント上昇した。

黒崎商工会調査、中小企業調査、第四北越調査ともに販売（客）単価 BSI は上昇しており、前期と同様に第四北越調査の水準が一番高くなっている。



※中小企業調査では、売上単価・客単価を尋ねている。

※第四北越調査では、販売価格を尋ねている。

6. 資金繰り

今期の資金繰りが、前期と比べて「好転」と回答した企業の割合は3.3%、「不変」は80.0%、「悪化」は16.7%という結果だった。

今期の資金繰り BSI（「好転」－「悪化」）は▲13.4 と、前期（▲13.4）から横ばいで推移した。来期は▲16.7 と今期より 3.3 ポイント低下する見込みであり、資金繰りは大きくは変わらないことが予想される。

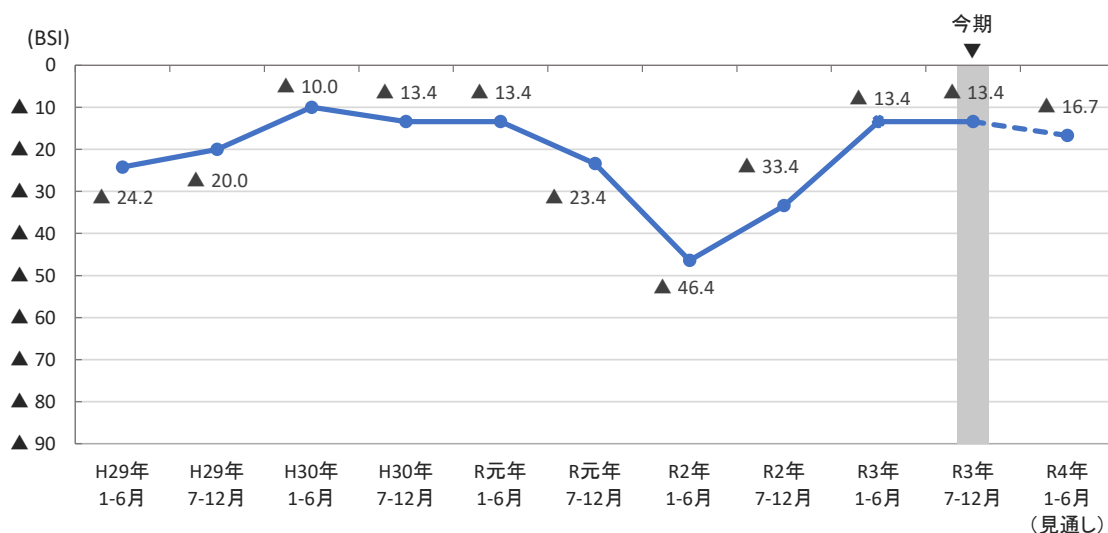


図 6.1 資金繰り BSI

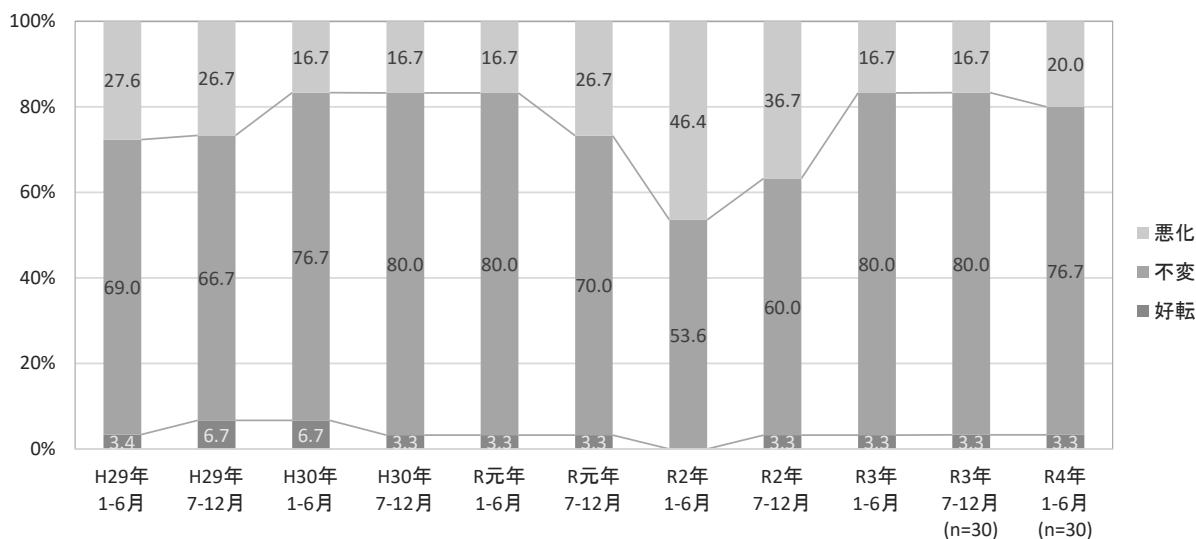
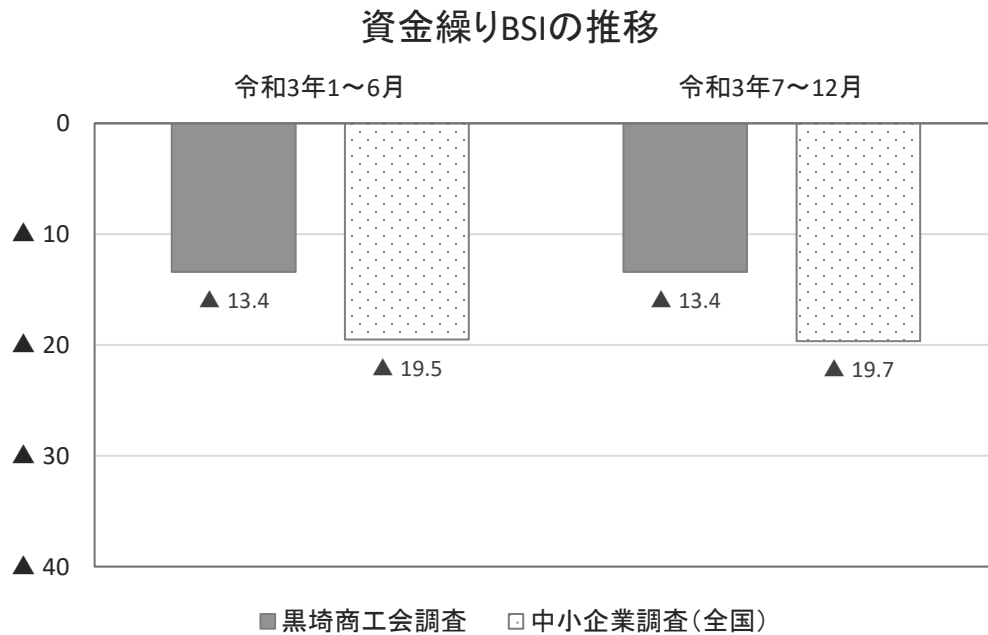


図 6.2 資金繰りの回答割合

【参考】

「中小企業調査」をもとに全国の中小企業の資金繰りDIをみると、前期は▲19.5、今期は▲19.7であり、前期から今期にかけてほぼ横ばいで推移した。

黒埼商工会と中小企業調査ともに資金繰りBSIにほとんど変化は見られない結果となった。



7. 雇用動向

今期の雇用動向が、前期と比べて「増加」と回答した企業の割合は0.0%、「不変」は100.0%、「減少」は0.0%という結果だった。

今期の雇用動向 BSI（「増加」－「減少」）は0.0 と、前期（▲6.9）より6.9ポイント増加した。来期は▲7.1 と、今期から大きく変化はないとみられる。

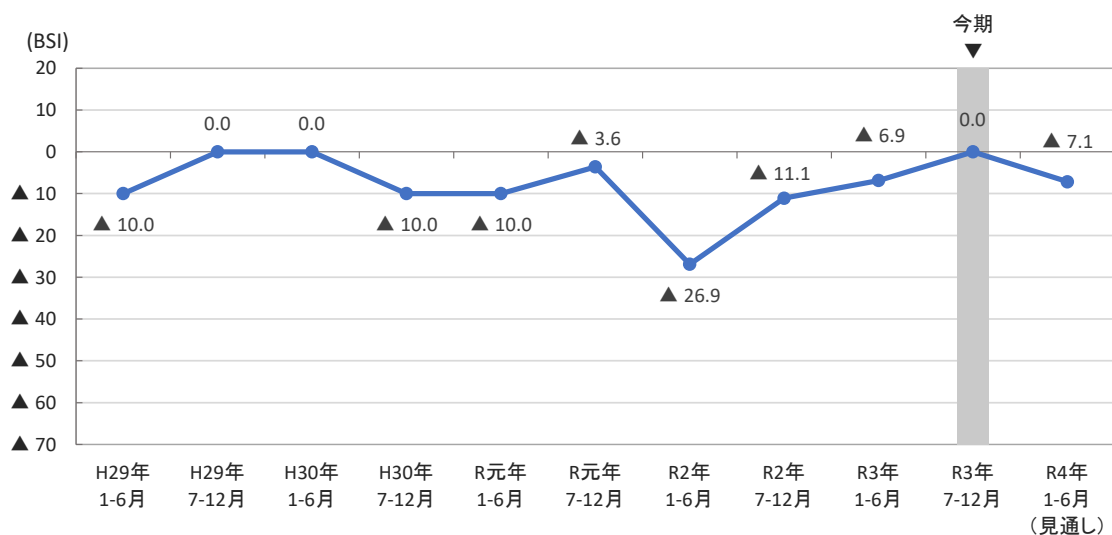


図 7.1 雇用動向 BSI

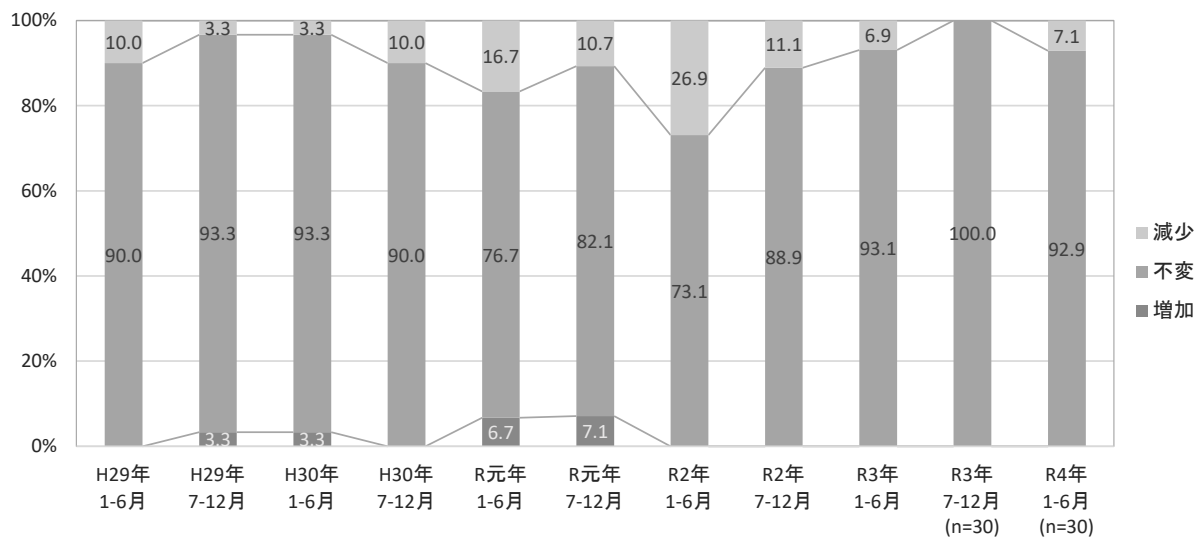
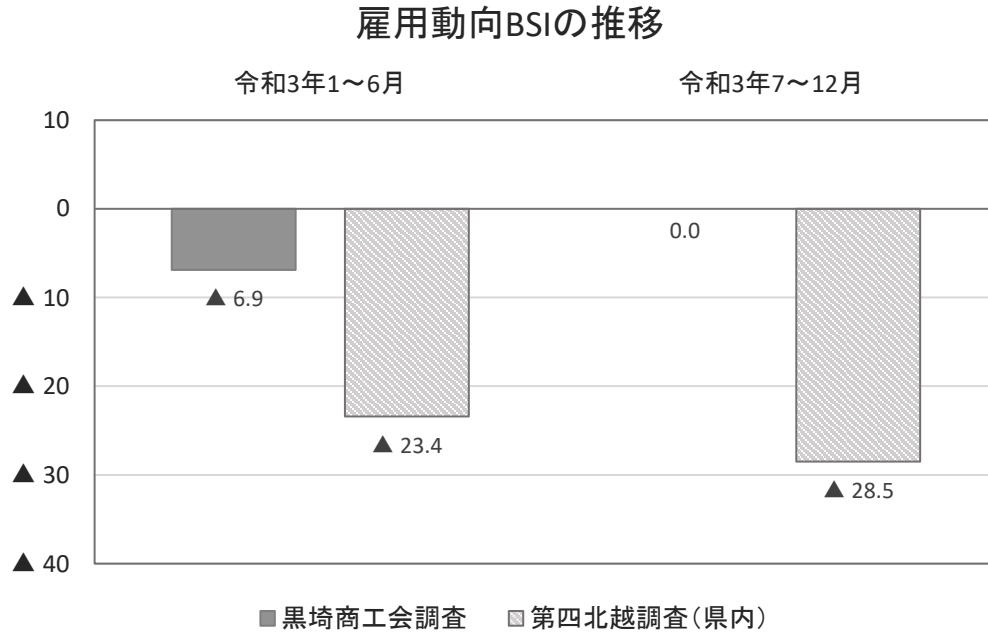


図 7.2 雇用動向の回答割合

【参考】

「第四北越調査」をもとに、県内企業の雇用 BSI*をみると、今期は▲28.5 となり、前期 (▲23.4) より 5.1 ポイント低下した。

第四北越調査の水準は低下し、人手不足傾向が強まっている一方で、黒埼商工会調査の水準は上昇しており、雇用の不足感は緩和している。



※第四北越調査では、雇用を尋ねている。

8. 景況判断

今期の景況判断が、前期と比べて「好転」と回答した企業の割合は6.7%、「不変」は50.0%、「悪化」は43.3%という結果だった。

今期の景況判断 BSI（「好転」－「悪化」）は▲36.7 と、前期（▲27.6）より 9.1 ポイント悪化した。来期は▲46.7 と、今期より 10 ポイント悪化する見込みであり、全体的に厳しい状況が続くとみられる。

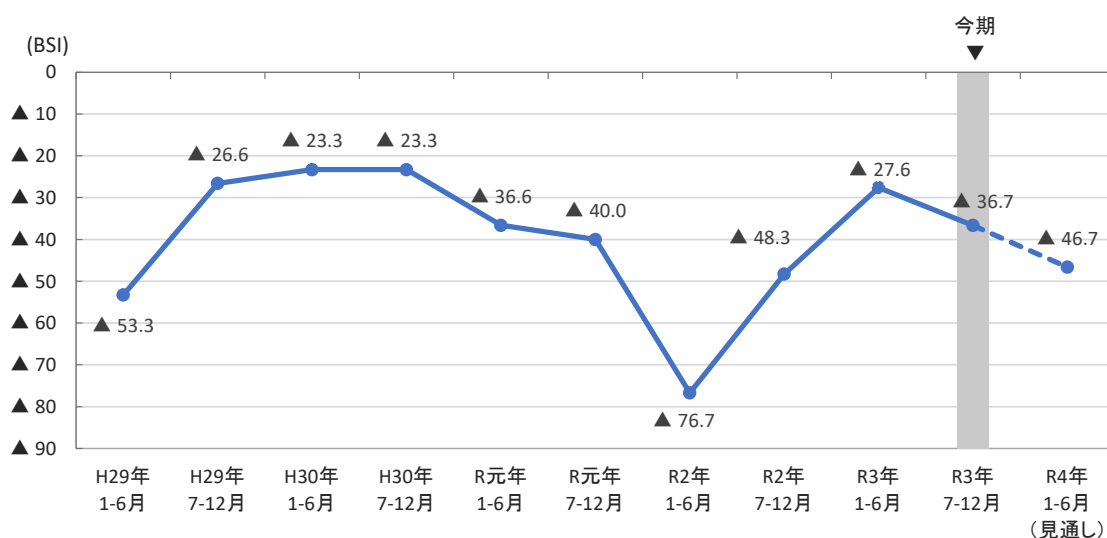


図 8.1 景況判断 BSI

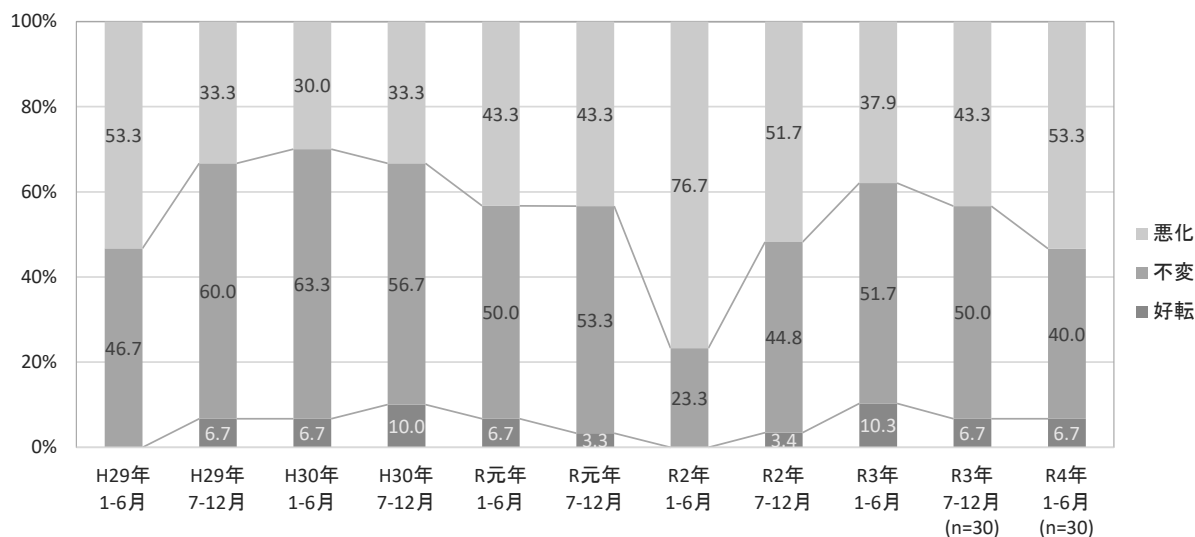


図 8.2 景況判断の回答割合

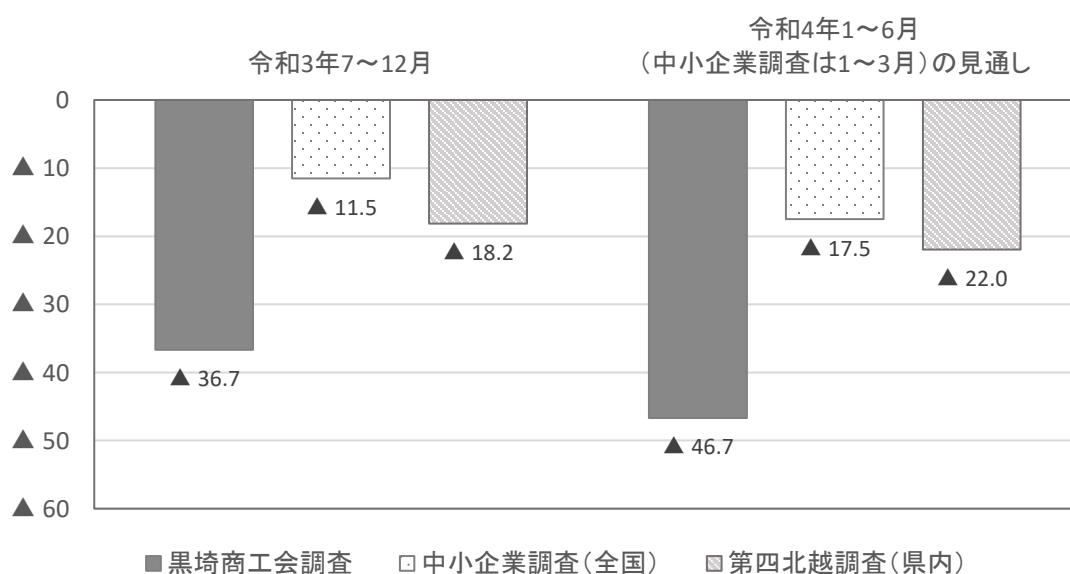
【参考】

「中小企業調査」をもとに全国の中小企業の業況判断 DI*をみると、今期は▲11.5、来期の見通しは▲17.5 と低下する見込みである。また、中小企業調査では令和4年4～6月の見込みが出ていなかったため、令和4年1～3月の見通しを使用している。

「第四北越調査」をもとに県内企業の業況判断 BSI*をみると、今期は▲18.2、来期の見通しは▲22.0 と低下する見込みとなっている。

黒埼商工会調査と中小企業調査、第四北越調査ともに今期より来期の方が景況・業況判断 BSI は低下する見通しとなっており、黒埼商工会調査の低下の見込み幅が大きくなっている。

景況・業況判断BSIの推移



※第四北越調査では、業況を四半期毎（1～3月、4～6月、7～9月、10～12月）に尋ねていることから、グラフでは1～3月と4～6月の平均を1～6月に、7～9月、10～12月の平均を7～12月に表示している。

※中小企業調査、第四北越調査では、業況判断を尋ねている。

9. 経営上の問題点

経営上の問題点をみると、「店舗、設備等の老朽化」が最も多く 46.7%、次いで「仕入単価の上昇」が 43.3%である。この 2 つは、回答した企業の半数近くが経営上の問題点として挙げている。以下、「需要の停滞」が 36.7%、「従業員の確保」が 33.3%となっている(図 9.1)。

また、令和 3 年度上期調査と比較すると、「仕入単価の上昇」が増加している一方で、「税負担の増加」は低下している。

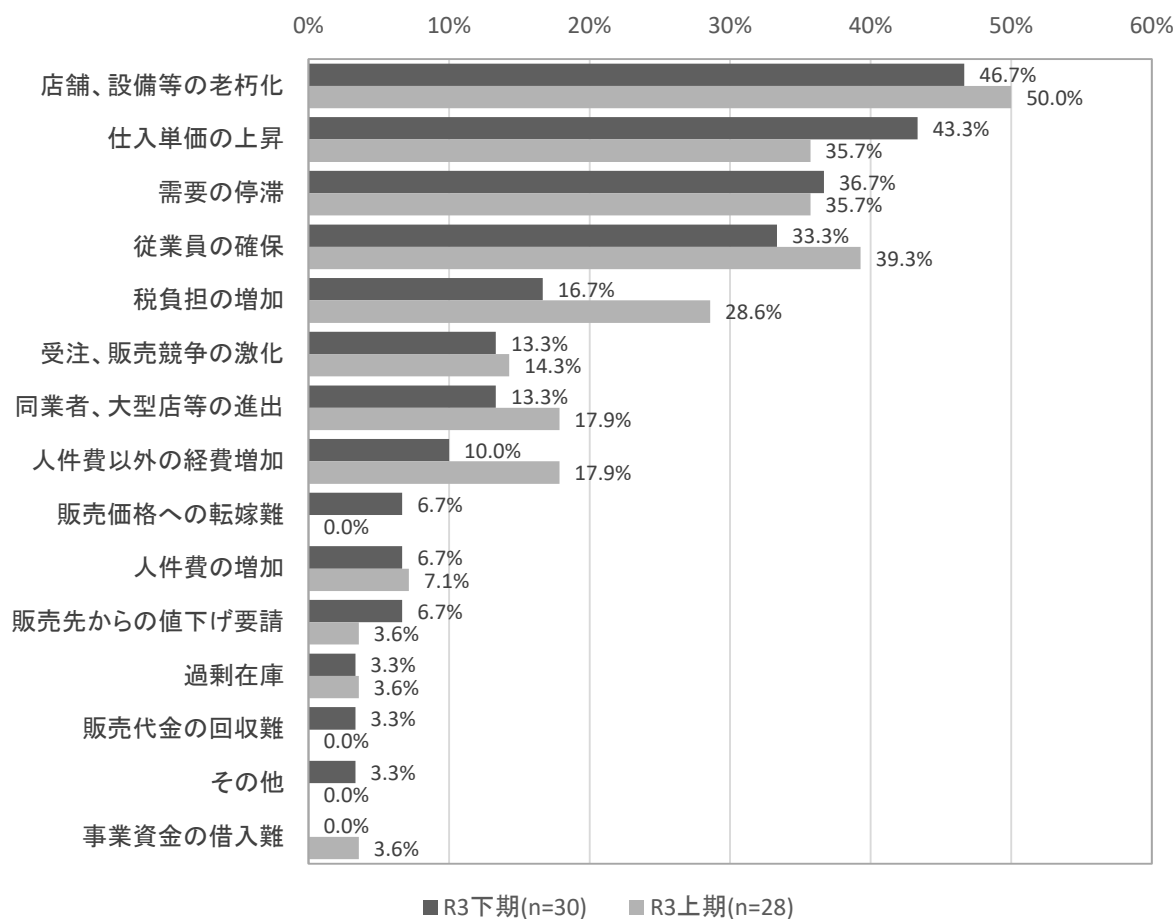
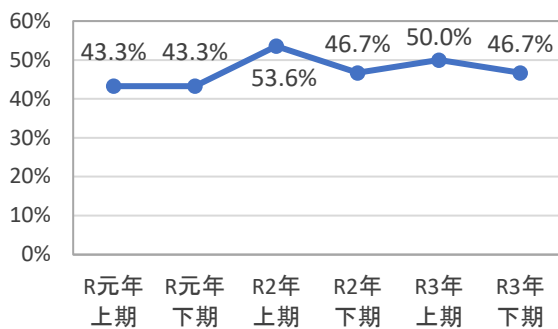


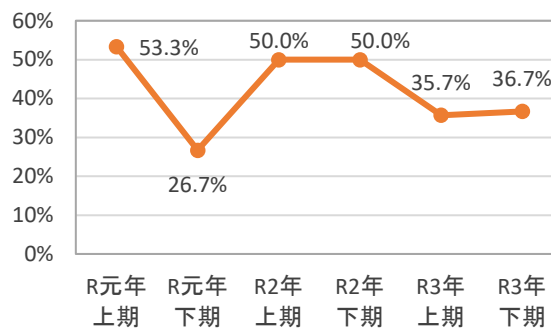
図 9.1 経営上の問題点 (3 つまでの複数回答)

経営上の問題点の上位項目をそれぞれ時系列でみると、「店舗、設備等の老朽化」の割合は依然として高く、「需要の停滞」は令和2年度よりも割合が低い。また、前期に大きく増加した「仕入単価の上昇」の割合は今期さらに増加した。その他の上位項目は、いずれも前期より低下している。

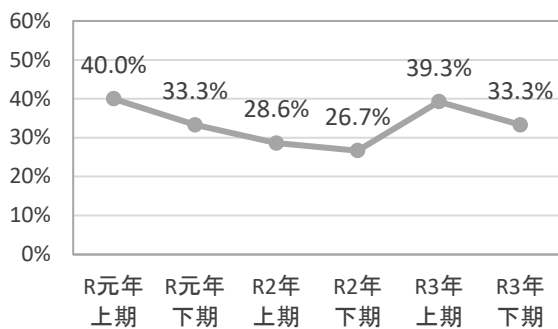
店舗、設備等の老朽化



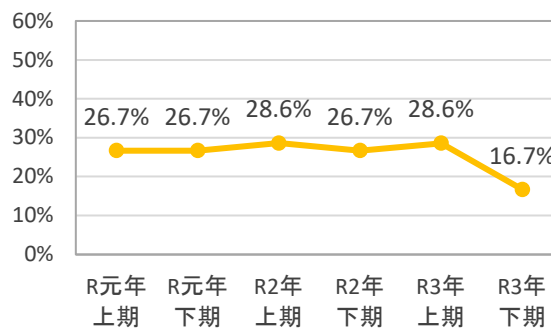
需要の停滞



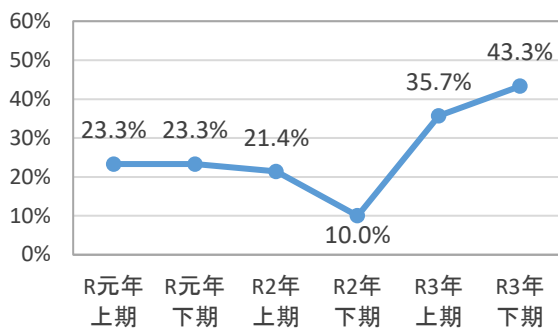
従業員の確保



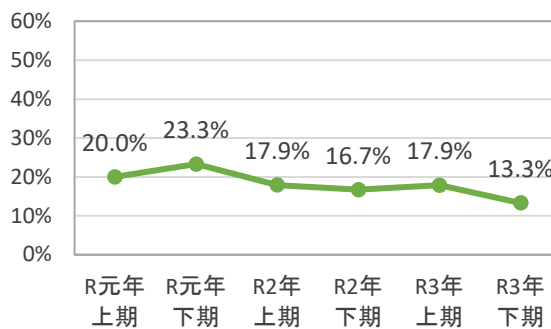
税負担の増加



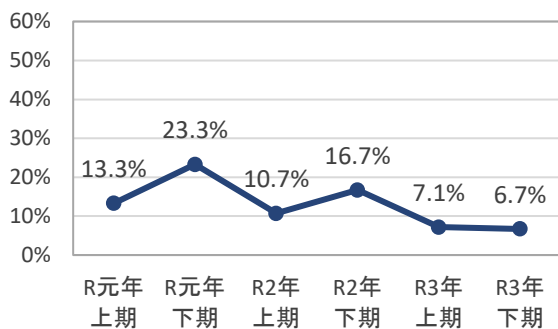
仕入単価の上昇



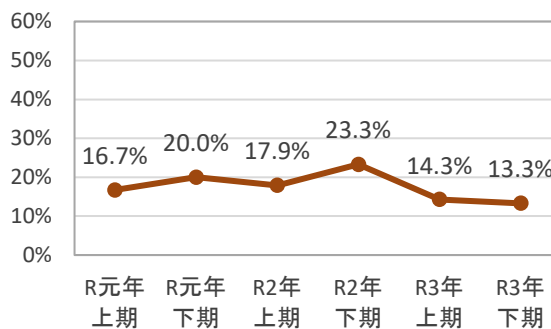
同業者、大型店等の進出



人件費の増加



受注、販売競争の激化



10. 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の影響について、自由回答で尋ねた結果は表 10-1 のとおりである。

製造業では、仕事の依頼が不安定だとの回答がみられる。また、建設業では前年よりも売上が減少しているとの回答がある一方で、売上等が回復してきているとの回答もみられる。卸・小売業では、需要が減少してからなかなか戻らないとの声があり、厳しい状況がうかがえる。サービス業他では、売上の減少、メーカーからの納期の遅れといった影響がある。また、どの業種においても仕入単価の上昇が感染症の影響として挙げられている。

表 10-1 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の影響について (売上面、仕入面、環境面など)	業種	従業員数
相手から仕事の依頼が不安定	製造	3人～5人
今期は特になし	製造	6人～20人
R2年の売上より35%ダウン	建設	1人～2人
R3年上期は影響があったがだいぶ回復してきている	建設	3人～5人
仕入単価（材料の値上げ）がづらい	建設	3人～5人
今のところ影響はありません。	建設	6人～20人
コロナが原因で、売上げが半減しました。	卸・小売業	0人
去年は催事ができなくなるなど困った点がありましたが、現在は特に感じていません。	卸・小売業	0人
需要が減少してからなかなか戻らない。仕入問屋の動きが悪くなった。年末年始の需要拡大に期待。	卸・小売業	1人～2人
売上げ面で、影響が多大である	卸・小売業	1人～2人
売上は落ちている、仕入単価は上がっている	サービス他	0人
メーカーからの納期が遅い	サービス他	1人～2人
特になし。	サービス他	3人～5人
仕入れ高、競争激化	サービス他	6人～20人

11. 今後の事業・経営において強化したい点等

今後の事業・経営において強化したい点や商工会への意見・要望を自由回答で尋ねたところ、表 11-1 のような回答があった。

販路開拓や人材育成に力を入れたいとの意見が多く、商工会への意見として長期的な視点を持った情報提供や企画等が求められている。

表 11-1 今後の事業・経営において強化したい点、商工会への意見

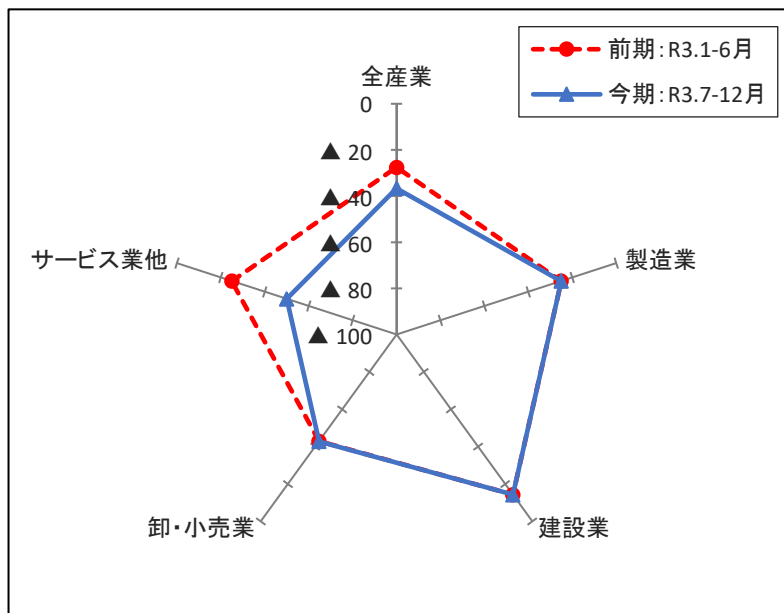
今後の事業・経営において強化したい点、商工会への意見	業種	従業員数
販路開拓	製造	1人～2人
新規開拓、従業員の確保	建設	3人～5人
今後も宜しくお願い致します。	建設	3人～5人
人材の育成に重点をおいて強化する。	建設	6人～20人
商工会様「大売り出し」をもっと頻繁に企画して下さい。	卸・小売業	0人
10年後、20年後、大野町がどうなっていればいいのか？そんな視点をもって様々な情報を提供してほしいと思います。楽しいだけでは困るかな？と最近思います。	卸・小売業	0人
今後、先のことは期待不安？etc。 情報や対処は速く願います。	卸・小売業	1人～2人
設備投資、販路開拓で、強化していくことの相談にのって欲しい。	卸・小売業	1人～2人
トイレの水洗化	サービス他	0人
設備投資と仕入れ強化	サービス他	6人～20人

IV 調査結果の総括

1. 調査項目別概要

景況判断	<p>■ 今期の景況判断 BSI（「好転」－「悪化」）は▲36.7 と、前期（▲27.6）より 9.1 ポイント悪化した。来期は▲46.7 と、今期より 10 ポイント悪化する見込みであり、全体的に厳しい状況が続くとみられる。</p>
売上	<p>■ 今期の売上 BSI（「増加」－「減少」）は▲33.3 と、前期（▲43.3）より 10 ポイント上昇した。来期は▲40.0 と、今期より減少する見込みであり、依然厳しい状況が続くとみられる。</p>
採算（経常利益）	<p>■ 今期の採算（経常利益） BSI（「好転」－「悪化」）は▲43.3 と、前期（▲40.0）より 3.3 ポイント悪化した。来期は▲50.0 と、今期より悪化する見込みであり、全体として厳しい状況が続くことがうかがえる。</p>
仕入単価	<p>■ 今期の仕入単価 BSI（「上昇」－「低下」）は 60.0 であり、前期（50.0）より 10.0 ポイント上昇した。来期は 56.7 と、今期よりやや低下する見通しとなっており、仕入単価の高止まり感は続くとみられる。</p>
販売（客）単価	<p>■ 今期の販売（客）単価 BSI（「上昇」－「低下」）は 0.0 と、前期（▲13.8）より 13.8 ポイント上昇した。来期も 0.0 と、今期から横ばいで推移するとみられる。</p>
資金繰り	<p>■ 今期の資金繰り BSI（「好転」－「悪化」）は▲13.4 と、前期（▲13.4）から横ばいで推移した。来期は▲16.7 と今期よりやや低下する見込みであり、資金繰りは大きくは変わらないことが予想される。</p>
雇用動向	<p>■ 今期の雇用動向 BSI（「増加」－「減少」）は 0.0 と、前期（▲6.9）より 6.9 ポイント増加した。来期は▲7.1 と、今期から大きく変化はないとみられる。</p>
経営上の問題点	<p>■ 経営上の問題点をみると、「店舗、設備等の老朽化」が最も多く 46.7%、以下、「仕入単価の上昇」が 43.3%、「需要の停滞」が 36.7%、「従業員の確保」が 33.3%となっている</p>
新型コロナウイルス感染症の影響	<p>■ 製造業では、仕事の依頼が不安定だとの回答がみられる。建設業では事業者によって回復度合いに差が出ている。卸・小売業では、需要が減少してから戻らないとの声があり、厳しい状況がうかがえる。サービス業他では、売上の減少、メーカーからの納期の遅れといった影響がある。どの業種においても仕入単価の上昇が感染症の影響として挙げられている。</p>

2. 業種別の動向（景況判断 BSI・前期比）



3. まとめ

黒埼地域内企業の今期の「景況判断」は▲36.7となり、3期ぶりに低下した。業種別では、製造業が▲25.0、建設業が▲14.3、卸・小売業が▲42.9で前期と同様の水準だったのに対し、サービス業他が▲50.0（前期差 25.0 ポイント減）で大幅に悪化した。感染症の断続的な流行により、接客業や飲食業などサービス業の打撃が大きいことが分かる。来期の「景況判断」は悪化が見込まれており、厳しい状況が続くとみられる。第四北越調査においても、業況がやや悪化する見込みであり、県内経済の下振れが懸念されている。

新型コロナウイルス感染症の影響については、製造業で仕事の依頼が不安定だとの声があがっており、建設業では事業者によって回復度合いに差がみられる。卸・小売業やサービス業他では需要の停滞やメーカーからの納期遅れといった影響がみられる。また、経営上の問題点でも上位に挙がっていたが、仕入単価が上昇しているとの声が多く聞かれた。前期と同様に、半導体不足をはじめとして各原材料や部品の価格上昇、輸入コストの高騰が企業の負担となっており、需要の停滞も重なって採算面が悪化しているとみられる。

新型コロナウイルス感染症の変異株が猛威を振るっており、第6波の拡大に歯止めがかからない状況となっている。ワクチンの定期的な接種や無料のPCR検査の拡大、医療供給体制の強化などにより、徐々に経済活動が活性化することが期待される。各事業者は、政府の要請に対応しつつ、事業を継続させることが重要である。

【資料編】

景況調査ヒアリングシート（令和3年度）

調査対象期間 令和3年7月～12月

（調査時点 令和3年12月1日）

商 工 会 名		黒埼商工会	担当職員名	
企 業 の 概 要	業 種	1：製造 2：建設 3：卸・小売業 4：サービス他		
	従業員数	1：0人 2：1人～2人 3：3人～5人 4：6人～20人 5：20人超		
	企業区分	1：小規模事業者 2：小規模事業者以外		
	後継者の有無	1：有 2：無		

(1) 貴社の状況についてお答えください。(該当する番号に○を付してください。)

	前年同期(R2年7～12月) と比較して	前期(R3年1月～6月) と比較して	今期(R3年7～12月)と 比較した来期(R4年1～6月) の見通し
売 上	1. 増加 2. 不変 3. 減少	1. 増加 2. 不変 3. 減少	1. 増加 2. 不変 3. 減少
採算(経常利益)	1. 好転 2. 不変 3. 悪化	1. 好転 2. 不変 3. 悪化	1. 好転 2. 不変 3. 悪化
仕 入 単 価	1. 上昇 2. 不変 3. 低下	1. 上昇 2. 不変 3. 低下	1. 上昇 2. 不変 3. 低下
販売(客)単価	1. 上昇 2. 不変 3. 低下	1. 上昇 2. 不変 3. 低下	1. 上昇 2. 不変 3. 低下
資 金 繰 り	1. 好転 2. 不変 3. 悪化	1. 好転 2. 不変 3. 悪化	1. 好転 2. 不変 3. 悪化
雇 用 動 向	1. 増加 2. 不変 3. 減少	1. 増加 2. 不変 3. 減少	1. 増加 2. 不変 3. 減少
景 況 判 断	1. 好転 2. 不変 3. 悪化	1. 好転 2. 不変 3. 悪化	1. 好転 2. 不変 3. 悪化

(2) 貴社の経営上の問題点（下記より上位3つまでを選び、○を付してください。)

- ①受注、販売競争の激化 ②同業者、大型店等の進出 ③過剰在庫
 ④店舗、設備等の老朽化 ⑤販売代金の回収難 ⑥需要の停滞
 ⑦仕入単価の上昇 ⑧販売価格への転嫁難 ⑨人件費の増加
 ⑩人件費以外の経費増加 ⑪事業資金の借入難 ⑫従業員の確保
 ⑬販売先からの値下げ要請 ⑭税負担の増加
 ⑮その他（ ）

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響について（売上面、仕入面、環境面など）

--

(4) 今後の事業・経営において強化したい点（設備投資・販路開拓等）商工会への要望・意見等

--

令和3年度 黒埼商工会 下期景況調査
報告書

令和4年2月
黒埼商工会